

佐賀県の未来を担う子どもたちのために
日本競輪選手会佐賀支部による
「チャリンコチャリティブロジェクト」
寄付事業



※写真は「済昭園」様の
許諾を得て掲載しております。

武雄競輪場で4月17日〜20日の4日間、年に1回のたけお競輪ビッグレース開設64周年記念たけお競輪「大楠賞争奪戦」(GIII)が開催されました。その4日間で競輪選手会自らが運営する競輪グッズショップを出店したり、チャリティブロジェクトを実施し、ファンとの交流が図られました。

そして後日、5月26日に、日本競輪選手会佐賀支部は、そのグッズショップとチャリティブロジェクトでの収益を、様々な事情により、家族による養育が困難な子ども達が入所している嬉野市塩田町の児童養護施設「済昭園」へ寄付されました。新学期も始まったばかりで子どもたちが必要としている文具やスポーツ用具などを購入してもらおうため

の現金10万円と、安全に楽しく自転車に乗ってもらうための自転車用ヘルメット。また競輪選手が実際のレースで着用するユニフォームやヘルメットなどが記念品として渡されました。子どもたちの笑顔に競輪選手の方々も大変喜ばれていました。

原司支部長は「子どもたちが喜んでくれて本当に良かったです。これからも競輪選手として、地元貢献事業に積極的に取り組んで、競輪をもっと広く知っていただきたいと思えます。」と、笑顔で力強く語られました。

夏を目前、盛大に行われた
市内恒例イベント



夏を目前に行われる武雄恒例のお祭りが各地で開催されました。

6月1日(日)、昨年比べて晴天に恵まれた当日、武雄温泉保養村では「第19回ほたる祭り」イベントが開催されました。昨年よりもステージイベントが盛り沢山であった今年度は、恒例のビンゴ大会が行われた夜まで例年



以上の来場者で賑わいました。もちろん、当日夜は会場近くの保養村せせらぎブロードのほたるが見頃を迎え、無数のほたるが飛び交っていました。

また、同場所にて開催された「第13回美味喜まんじゅう水上大会」は落水した敗者の水しぶきさえも気持ちのいい陽気で、競技コンディションとしては抜群。大人子ども各16チームずつ参加し、市外からも遠く神奈川県から2チーム、福岡県から1チーム、長崎県大村市から1チームが参加し、大会を二層盛り上げてくれました。

一方で同日、御船が丘梅林にて、「第29回うめくランド」が開催され、梅にちなんだ各種イベントはこの日を楽しみにされていた方々でいっぱい。「若い世代の人にもっと梅の魅力を伝えたい、梅をちぎる文化を伝える武雄ならではのせつかくのイベントなので、もっと活用してほしい。」と漏らす主催者。来年は第30回と節目の年、一層盛り上がるイベントに工夫したいと意気込まれていました。



5年ぶりの
「茶摘み体験」課外授業

6月13日、西川登小学校3年生の総合的な学習として、JAさが嬉野野営農事業所の指導のもとでの茶摘み体験や、西川登大型製茶工場での見学が行われました。普段できない体験に子どもたちは大興奮。茶摘み体験では「言われた通りに摘むのはなかなか難しいけど、楽しかった。」と初めての体験を喜び子どもたち。製茶工場ではクイズを交えて製茶の行程を見学し、ペットボトルのお茶とは違う美味しさや、健康を促進するお茶の大切さを知る良い体験となったようです。JAさがの本田薫さんは、「ぎゅうすを使ってお茶を飲む時代では無い今、家族で团らんしながらゆっくりお茶を楽しむ時間を作ってほしい。お茶の文化を取り戻すためにも、今回のような課外授業に積極的に協力していきたい。」と語られました。

